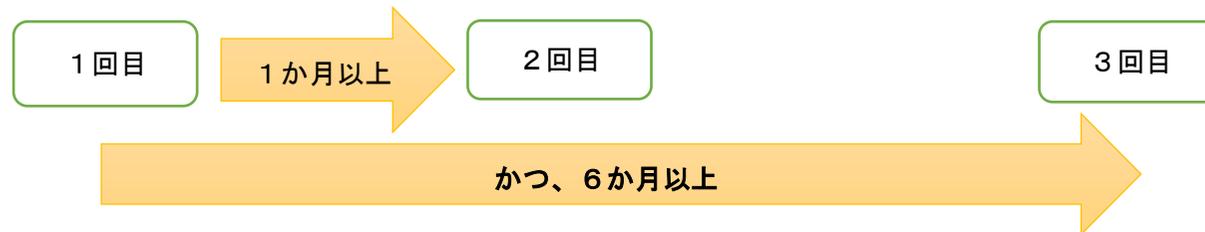


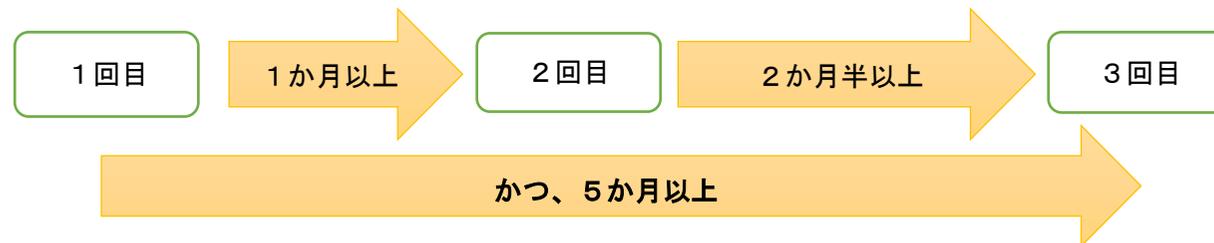
子宮頸がん予防ワクチンの接種間隔について

●2価（サーバリックス）

<標準的な接種間隔>

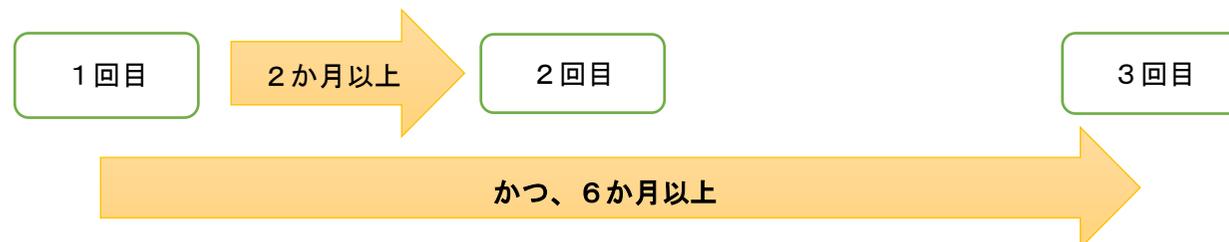


<標準的な接種間隔がとれない場合>



●4価（ガーダシル）

<標準的な接種間隔>



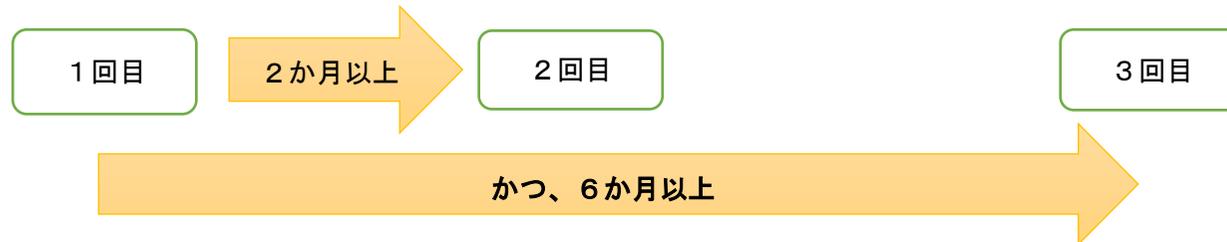
<標準的な接種間隔がとれない場合>



●9価（シルガード9）

①9歳以上の女性に**合計3回**接種する場合

<標準的な接種間隔>



<標準的な接種間隔がとれない場合>

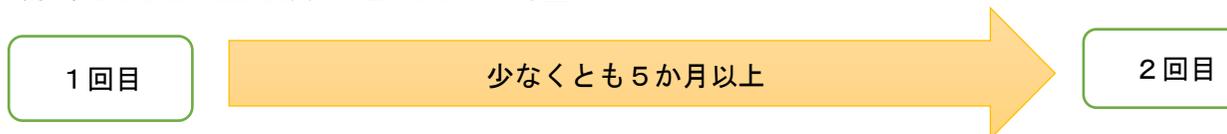


②9歳以上15歳未満の女性に**合計2回**接種する場合

<標準的な接種間隔>



<標準的な接種間隔がとれない場合>



※2023年3月7日 第45回厚生科学審議会
予防接種・ワクチン分科会資料より

<2回接種する場合の接種方法について>

- ・合計2回の接種をする場合、1回目接種から13か月後までに2回目を接種することが望ましい。
- ・2回目の接種が、1回目接種から5か月後未満であった場合、3回目の接種を実施すること。この場合、3回目の接種は2回目の接種から少なくとも3か月以上間隔を置いて実施すること。
- ・2価及び4価HPVワクチンとの交互接種となる場合は3回接種とする。2価及び4価HPVワクチンで接種を開始した者の接種間隔は、9価の接種方法に合わせて実施すること。

<2回接種の対象年齢について>

- ・小学校6年生の学年から、15歳の誕生日の前日（15歳未満）までとする。
- ・15歳になるまでの間に1回目の接種を行えば、2回での接種完了を可能とする。